

出向者通信



No.16

2022年2月14日
J R 東海労働組合

「私の一存では決められない！」

「上が決めること」 (第二事業所山崎所長)

クラスター級の感染が発生している部署の社員が「無症状の社員にPCR検査をすべきではないか」との声に耳を傾けることなく、感染防止対策や検査等をすすめようとしない第二事業所所長！これが現場の責任者＝所長の言うことか！

新型コロナウイルス第6波が猛威を振るっている中、(株)関西新幹線サービック第二事業所において、クラスター級の感染者数が出ています。しかし、職場や本社の対応は「マスク着用と消毒に黙食」だけ！

そして、第二事業所山崎所長は陽性者が出れば、一緒に仕事をしていた社員への連絡や体調確認はせず、陽性者の行動がどうであったか？本人への確認に奔走しています。あたかも感染した社員に問題があるかのように、高熱で休んでいるところもお構いなしに何度も電話をしているのです(どうもこれは本社からの指導のようですが)。そもそもこのような仕事は各担当の係長等に任せればよいことです。

さらに、コロナ禍で業務量が減少し、感染予防のために自宅待機等「密を避ける対策を講じる」など、現場での感染拡大防止に向けた方策等一切考えることなく、自らも係長や一般社員の業務に就き、何が何でも所定要員を確保することに躍起になっているのです。

すでに感染した社員は徐々に復帰してきていますが、無症状の社員や、感染した社員と24時間一緒に仕事をした社員などは不安な状態です。

早急に社員の不安を解消するための方策を全社員に明らかにし実施すべきです。

私たちJR東海労は、決して泣き寝入りせず出向先での問題や労働条件改善に向けて取り組んでいきます。

皆様のご意見・ご相談をお待ちしています！